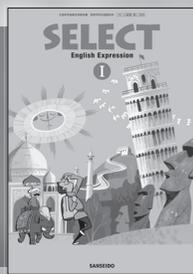


# 『SELECT English Expression I』の基本方針と内容紹介

—意欲を起こさせる教科書をめざして—



成城大学 井上 徹

## はじめに

新学習指導要領の採択2年目にあたり、この度、『SELECT English Expression I』を世に問うことになりました。この教科書は、生徒に意欲を起こさせることをめざして誕生した「英語表現 I」の教科書です。英文法に関する意識を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することを目的にしています。

## 『セレクト英語表現 I』の特色

『セレクト英語表現 I』は、英語を「学び」「復習する」と英語を「使う」ことを並行して行い、学んだ英語が実際に役立つと実感してもらうための教科書です。内容面でもタスク活動面でも、生徒の注意を引く面白さを随所に盛り込んでいます。言うまでもなく、外国語学習で一番大切なことは、長期に渡って学び続けることです。本教科書では、生徒の学習の継続を促すために、生徒の興味・関心を呼ぶ身近な話題を選び、やさしい英文法を学びながら英語の発想を理解できるようにしました。

英語のコミュニケーションを行う際に土台となる文法については、ことばによる長い解説をする代わりに、最低限の説明とわかりやすいイラストで解説しました。また、「瞬間チェック」「Gトレーニング」「Speak-Up!」という3段階の問題演習を通じて、直接口に出して言ったり書いたりすることで、学んだ項目を定着させる方式を採っています。本教科書をご使用になる先生方には、この教科書で学んだ文法項目や表現を使って、生徒が実際にコミュニケーションを図るという体験を授業中にたくさんさせてください。中学校で学んできた英文法をコミュニケーションやポライトネスの立場から見直し、これまで知っていただけの知識を、場面に合わせて使え

るようになることを目標としています。

## 本課の内容

本教科書の具体的な編集方針と内容紹介に移りましょう。まず、本教科書は英語表現のための「基礎・基本」を確実に習得することを編集の基本としています。そのため、教科書で扱う英語は平易なものとし、使用する例文は短く簡潔で覚えやすいものになっています。生徒が中学校ですでに学んで「知っていること」と、時折出てくる「知らないこと」を交互に織り交ぜています。このようにすることで、生徒に「安心感」を与えつつ、ある種の「どきどき感」を取り混ぜて学習の継続を促しています。

教科書は見やすい見開き2ページの構成で、現場の先生が使いやすいテキストになっています。本教科書は、多くの高校の先生方がイメージしておられる文法シラバスを軸としたライティングと、スピーキングのためのコミュニケーション英文法を理解しながら、自己表現や発表に役立つ英語表現を学べるように作られています。

### ○インパクトのある「見返しページ」

「前見返し」と「後ろ見返し」には、本課（Lesson 12）でも取り上げているトリックアートが出ています。生徒に興味をもってもらうために、見ている面白いトリックアートを置きました。先生方も額縁の下を文字を解読しながら絵をご覧になり、生徒といっしょになって英語の質問に答えて戴けたらと思っています。

### ○授業でも独習でも使える「Let's Start」

本課に入る前の「Let's Start」では、アルファベットの復習を行います。つづりを入れ替えて他の単語を作ったり、アルファベット順に線で結んでナスカ

の地上絵を描いたり、イラストの中に見える事物を英単語で書いてみるコーナーが設けられています。続いて品詞と語順についての基礎を再学習し、自信をもって本課に入れるようになっていきます。英語が苦手な生徒も、得意な生徒もこれで準備完了です。

### ○興味を引く題材

スポーツ、生き物、旅行、環境、世界遺産といった定番の題材から、世界の食文化、芸能、不思議な絵、ご当地、活躍する高校生といった興味を引く話題を取り上げ、メリハリをつけました。また、人気ポップスター、アイドルグループ、トリックアート、書道パフォーマンス甲子園、白いリンゴ、青いバラなど、興味深い写真がたくさん用いられています。例文中に登場する人物の名前でさえ、教科書を使う生徒たちと同じ世代に多い身近な名前を選び、細部まで高校生の目線に立つようにこだわりました。

### ○「イントロ英会話」

各課の左ページには、各レッスンのトピックに象徴的な事物・人の写真、本課のタイトルに続いて、AとBのダイアログである「イントロ英会話」を配置しました。会話の中で、ターゲットとなる文法項目を使用した表現が太字で示されています。レッスンのトピックや写真に関係のある会話になっています。

### ○「Let's Listen」

各課の右ページ最上段には、写真を見ながら行うリスニング問題が配置されています。英文を3つ聞いて、右の写真に合うものを選ぶことになっていますが、必ず一つは後述の「セレクト英文法」の項目を使った文になっています。生徒は意識する、しないにかかわらず、基本的な文法項目に馴染んでいきます。

### ○「セレクト英文法36」

2単位の教科書であることを意識して、何百もある英語構文や文法項目の中から、最低限これだけは覚えてほしいという文法事項を厳選して36個に絞り込み、各レッスンに2つずつ入れました。まわりくどい説明を避け、イラストを使って理解しやすいように工夫しました。どのイラストも英文法の感覚

をそのまま捉えられるように配慮されています。英語学習でつまづく原因になっている、難しい英文法の概念や抽象的な文法用語を避け、イラストを見るだけで楽しみながら基本文法のイメージが理解できるようにしました。

### ○系統的な反復学習

『セレクト英語表現Ⅰ』の各練習問題は、「セレクト英文法」で学んだことをその場で確認する「瞬間チェック」、「セレクト英文法」や「プラスα」と各課のテーマに沿った問題文である「Gトレーニング(Gトレ)」、会話形式で自分のことを英語で表現する「Speak Up!」という3段階の累積方式で構成されています。「Gトレ」や「Speak Up!」は、本教科書のこれまでのレッスンで学んだすべての知識の確認として位置づけられるもので、必ずしも当該のレッスンの文法項目だけで成り立っているわけではありません。これらの練習問題で習った文法項目を復習し、確実に使えるようにしてください。

### ○ネイティブが実際に使っている表現を学ぶ

「Gトレ」の後は、「場面でGo!」を用意しました。2択問題を見て、場面に応じた適切な表現を選びます。一例を挙げましょう。外国人に日本語を話すかどうか尋ねるときに、Can you speak Japanese? と言ってしまいがちですが、相手の能力を尋ねるCan you ~? はこのような場面では不適切です。ネイティブなら、Do you speak Japanese? という表現を使うでしょう(Lesson 7)。このように、日本人が思わず言うってしまう表現を挙げながら、微妙な使い分けが必要なことを学びます。生徒に自分の気持ちをよりの確に表現するためには英文法の実践的な知識が欠かせないこと、これまで学んできた英文法が実際に「役に立つ」ことを実感させるコーナーになるはず。1問ごとに、自分が使う英語表現がネイティブ感覚に近づいていくことを実感していただけたら幸いです。

### ○おもしろい話題が満載

本教科書ではページ最下段を利用して、「英語で何という?」と「なるほどザ☆ワード」というコーナーを設けています。「英語で何という?」は、「セレクト英文法36」の文法項目を使った、言えそうで言え

ない日常表現、名言、ことわざを取り上げています。学んだ表現で、あんなこともこんなことも言えるということを示しています。また、「なるほどザ☆ワード」では、人気の宇宙食、アニメということばのルーツ、鉄人28号の英語名など、題材に即した興味深い豆知識を提供しています。

### 課間活動の内容

### ○「Gトレプラス」

本課数レッスンの後に「Gトレプラス」を配置しました。本課の「Gトレーニング」のプラスαとして、「セレクト英文法」の理解をさらに深めるための問題です。傍注には、それぞれの問題のヒントとして、問題解法のためのキーワードと対応するレッスン番号とページ番号を挙げ、該当するレッスンに戻ってすぐに復習ができるようにしました。

### ○「つなぎ言葉ランキング」

これまでの学校の英語教育では単文の指導に重点を置いてきたきらいがあります。実際のコミュニケーションの場面を考えてみれば、一言だけ言って会話を終えるということはほとんどありません。自分が言ったことに関して、理由を説明したり自分の気持ちや意見を述べたりするでしょう。そんなときに活躍するのが「つなぎ言葉」であり、文章全体にスムーズな流れを作り、ある程度まとまった内容を表現するときに欠かせないものです。このような観点から、「Gトレプラス」の右ページに、本教科書の目玉の一つである「つなぎ言葉ランキング」というページを置きました。ここではよく使われる接続詞を10個(and, that, but, or, as, if, than, when, because, so) 選び、その機能と用法を紹介しています。生徒にとっては意外な「つなぎ言葉」が上位にランクされていたり、馴染みのある「つなぎ言葉」が下位にランクされていたりして、新鮮な驚きを感じるかもしれません。

### ○新学習指導要領の趣旨を生かした、総合的な言語活動

新学習指導要領の「英語表現Ⅰ」の目標に即して、具体的な言語使用場面を設定し、即興で話したり、目的に応じて簡潔に話したり書いたりするために、本教科書では「Speaking Station」と「Daily

Conversation」という英語によるスピーキング・ライティング活動を設けました。

「Speaking Station」の趣旨は、読んだり聞いたりしながらテーマに沿った情報や知識を取り入れ、自分の考えをまとめ、自分の意見を発表するものです。「発表のための語句」や「発表によく使われる表現」を覚えて、実際に発表の練習をします。これらをスムーズに行うために、Warm Up ~ Input ~ My Opinion ~ ヒント ~ 発表に必要な表現 ~ Short Speech という6つの構成にしました。最後のShort Speechでは、パラグラフ内の語句と語句、文と文の結束性を高める方略として、ポイントを示す語句や文、つながりを示す語句を活用したモデル文やパターンを示しています。このようにして、パラグラフ・ライティングを意識させるようにしました。さらに、この活動をより効果的に行うために、「発表のコツ」でリズムやイントネーション、音のつながりなどの英語の音声の特徴、声の大きさ、話す速度などに関するワンポイントアドバイスをしました。

もう一つの総合的活動として、海外旅行やホームステイをするときに役に立つ「Daily Conversation」を3回分設けました。具体的には、買い物、レストランでの食事、道案内の場面を設定しました。海外旅行での英語は、必ずしも難しい表現を使う必要はありません。中学レベルの英語の知識をどのように有効に活用するかを会話形式で紹介し、それぞれの場面で必要と思われる語句や文を「その他の表現」としてまとめました。

### おわりに

『セレクト英語表現Ⅰ』は、現場の先生方が使いやすい伝統的な内容を土台にして、新学習指導要領で示されている総合的・統一的な活動も盛り込みながら、「場面でGo!」や「つなぎ言葉ランキング」などの新しい要素を取り入れた楽しい教科書になっています。最初に述べたように、この教科書の目的は、中学で学んだ基本的な文法項目を学び直し、さまざまな活動を通して、生徒の英語の表現力、発信力を高めることにあります。本書がきっかけとなって、英語への興味が深まり、英語を勉強する楽しさ、英語表現の面白さや奥深さを少しでも感じていただけたら幸いです。